



静脩

1983年10月

号 外

The Kyoto University Library Bulletin

附属図書館の竣工に当って

附属図書館長 高 村 仁 一

新しい附属図書館が、多くの方々の尽力によって、いよいよ竣工の運びとなりました。図書館が使い易く、そして自由な雰囲気、漂う思索の場となるよう、来春の開館にむけて、鋭意準備を進めております。2年余りの仮移転の期間中、利用者には何かと不便をおかけしましたが、各部局の温かい協力のお蔭で業務は順調に進行して今日を迎えました。

附属図書館の新営計画については、すでに先年の『静脩』（1981年6月、1982年1月）でお知らせしましたが、新しい図書館における機能はどのように充実されるのか、多くの方々から強い関心が寄せられています。新館はその完成に伴い、建物の延面積は旧館の約3倍（14,000㎡）となり、開架閲覧室・雑誌閲覧室・参考図書室等をはじめとして各種の施設・設備が大巾に拡充されますが、最も肝要な機能の面では、新館構想に示された四つの機能、すなわち学習図書館、研究図書館、保存図書館および総合図書館としての機能の整備によって、本学の教育・研究に対する支援機構として、積極的な役割を果たしてまいりたいと考えております。

一冊の本あるいは一つの論文との出会いの場である図書館のもつべき機能の具体化計画、および保存図書館として全学の蔵書収納計画に重要な意味をもつ「バックナンバー・センター」構想などについて、本号でその概要を説明いたしますので、関係各位の理解ある協力をお願い致したく存じます。

これらの基本的構想およびその具体化に当たり、附属図書館商議会をはじめ各種委員会において、本学の教育・研究体制にかかわる長期的な展望のもとに、回を重ね、熱心なご討議をいただきました。またその実現は、本部事務局の全面的支援なくしては得られませんでした。ここにあらためて謝意を表する次第であります。なお、業務・サービスの改善については、館員諸子の新しい図書館像への献身と献言によって初めて可能となったもので、夜間開館業務の充実、入庫検索の時間の延長、高額参考図書の整備計画、業務機械化計画等はその一端であります。誌上をかりて附言させて頂きたいと思ひます。